



卒後2年目看護研究への支援

望月 雅子
山内 利津代

I. はじめに

当院図書室では、看護部研究委員会の依頼を受けて、卒後2年目の看護婦を対象とした「看護文献の探し方」の利用者教育を1997年から実施している。講義内容を含む過去3年間の文献活用の推移、研究発表後のアンケートによる意識調査をもとに考察を加えたので報告する。

II. 対象と講義内容

講義の対象者は卒後2年目の看護婦で、1997年16名、1998年14名、1999年16名、2000年25名であった。講義時間は約1時間、2回実施し、必ずどちらかに出席することを義務づけている。講義内容については、著者が1996年に看護部を対象に行った「看護文献に対する意識調査」¹⁾の内容に基づき決定している。

1. 文献とは

「文献検索とは、自分の選択した研究課題に関連のある文献を系統的に検索し、入手し、読み、自分の研究にどう役立つのかを判断しまとめるまでの作業である。」と南²⁾は述べている。

まず、文献検索をする前に、自分の選んだテーマが大きくなりすぎていないか、何について研究したいのか、視点をかえて見た場合はどうなのかなどよく検討し、研究しようとするテーマを明確にした上で文献の利用目的を明らかにする必要があることを説明する。

2. 文献の調査・収集

文献検索、事項調査なども重要だが、手近な情報源として図書室でのブラウジングや新聞や雑誌からの情報はなによりも最新情報であること、また、職場の仲間・先輩から情報を得たり、研修会へ参加することでも資料や情報を手に入れることができる。日常業務の中で問題意識を持つことが大切であることを説明する。

3. 資料の種類

まず、当院にある資料について知ってもらう必要がある。当院看護部の定期購読雑誌数においては、1997年は18誌であったが、現在では26誌と増加している(表1)。雑誌の利用頻度を調査した結果、看護全般について掲載している「看護学雑誌」や毎号の特集記事内容が臨床の場ですぐに活用できる「臨床看護」、「看護技術」などがよく利用されていることも紹介している。また、「医療」の増刊号は、文献依頼

表1. 看護関係の購読雑誌

総合的	「かんご」「看護学雑誌」「看護実践の科学」「インターナショナルナースングレビュー」
教育・研究・管理	「看護研究」「看護展望」「看護の研究」「ナースデータ」「主任&中堅」「ナースエディケーション」「看護教育」「インフェクションコントロール」「患者満足」「外来看護新時代」
臨床的	「臨床看護」「看護技術」
専門的	「がん看護」「ブレインナーシング」「ベリネイタルケア」「助産婦雑誌」「小児看護」「プラクティス」「透析ケア」「眼科ケア」
その他	「医療(増刊号)」「日本看護学会論文集」

もちづき まさこ：袋井市立袋井市民病院図書室

やまうち りつよ：袋井市立袋井市民病院看護部長兼教務課長

の申込みが多かった事により、1999年から購読を始めたことなども付け加えている。

4. 検索の準備・方法

研究テーマを決めると次に「キーワード」を考え、二次資料を使った文献の検索に入る。

講義では、当院所蔵の二次資料を含む参考資料(表2)の中から「医学中央雑誌」(冊子体とCD-ROM)、「最新看護索引」、「日本看護学会研究論文総索引」の使用説明を行う。さらに「看護技術：文献総索引」や各雑誌の総目次も便利であり、他機関発行の卒後3年目の看護研究発表をまとめた冊子なども参考になることを付け加える。

当院看護部の卒後2年目の看護研究は、1年間の臨床の場での経験をもとに、一つの事例をまとめ看護業務を見つめ直し、ステップアップすることを目的とした事例研究である。研究のテーマが決まると看護部作成による「看護計画作成書」(図1)に基づき文献の検索・検討を行う。

5. 文献の入手

検索した結果、欲しい文献が図書室に無い場合は、図書室を通じて外部からコピーの取り寄せができることを説明する。利用者は書誌事項の見方がわからず、図書室に所蔵していても探し出すことができないことがある。また、文献

入手依頼の際、必要事項の記載も不十分なことが多いため、書誌事項についての説明も欠かせない。

6. 文献の整理

引用・参考文献の記載の仕方を教えることも重要である。特に単行書の文献をコピーする際には、奥付や表紙のコピーをしておくなど、出典の記録が必要であることを説明する。

7. 医中誌CD-ROMによる実習

最後に、医学中央雑誌CD-ROMを使った検索実習を、図書室作成のマニュアルを見ながら各自で行ってもらう。その際、パソコン利用の初心者については、キーやマウスの操作方法も指導しながら、検索方法を説明する。

Ⅲ. 調査結果と考察

1997年～1999年までの過去3年間に実際に使われた文献数を調査した結果、次のことがわかった。

1. 卒後2年目事例研究の文献引用数をみると、約70%は単行本が活用されている(図2)。これ

表2. 当院で所蔵しているおもな参考資料

医学中央雑誌	冊子体：1980年～ CD-ROM：過去6年間
最新看護索引	1993年、1994年
日本看護関係文献集	1984年
看護技術：文献総索引	1976年
日本看護学会研究論文総索引	第1回(1967年)～ 第22回(1991年)
日本看護学会研究論文集	第17回(1986年)～
日本看護学会論文集	第29回(1998年)～
全国自治体病院学会抄録集	第25回(1986年)～
看護の研究	

看護学大辞典、臨床看護辞典、南山堂医学大事典、平成3年度日本看護協会東海地区看護研究会集録、平成7年度東海北陸地区看護研究会集録、他機関の看護研究をまとめた掲載誌等

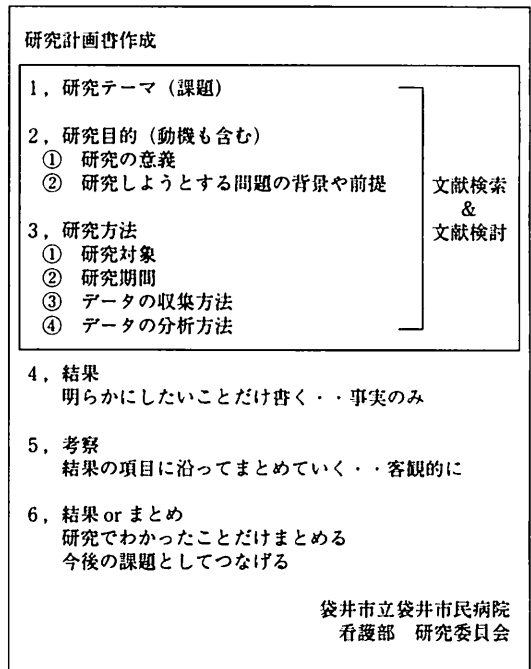


図1. 看護計画作成書

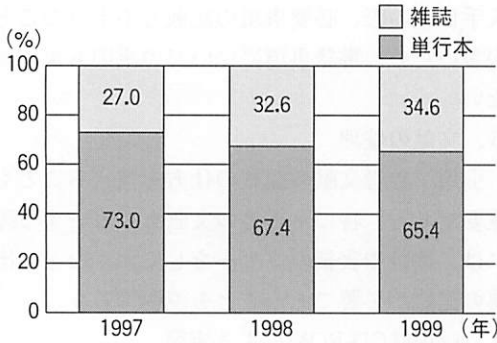


図2. 引用文献の単行本と雑誌の比率

は、約6ヶ月間で行われる事例研究が、事項調査によって裏付けされたものが多く、期間の長い症例研究などとは異なるためと思われる。

2. 一人1研究あたりの文献活用数は、1997年約5件、1998年、1999年は約7件とすこしずつではあるが増加している。

表3-1. 文献活用数

	1997年	1998年	1999年
対象者数 (名)	16	14	16
活用文献総数 (件) 単行書	62	62	68
雑誌	23	30	36
計	85	92	104

表3-2. 書誌事項記載数 (単行書)

項目	1997年	1998年	1999年
書名	59 (95.1%)	62 (100%)	68 (100%)
著者名	60 (96.8%)	62 (100%)	68 (100%)
出版地	0 (0%)	0 (0%)	25 (36.8%)
出版社	50 (80.6%)	44 (71.0%)	59 (87.7%)
年	33 (53.2%)	62 (100%)	58 (85.3%)
ページ	14 (22.6%)	42 (67.7%)	33 (48.5%)

() ; 記入数/総数

表3-3. 書誌事項記載数 (雑誌)

項目	1997年	1998年	1999年
論題	23 (100%)	30 (100%)	36 (100%)
著者名	22 (95.7%)	30 (100%)	36 (100%)
誌名	22 (95.7%)	29 (96.7%)	35 (97.2%)
年	22 (95.7%)	26 (86.7%)	35 (97.2%)
巻(号)	17 (73.9%)	24 (80.0%)	36 (100%)
ページ	15 (65.2%)	19 (63.3%)	33 (91.7%)

() ; 記入数/総数

3. 書誌事項の記載が不十分で、かなりの記入漏れがある。単行本では、奥付、表紙等を記録保存していないためと考えられる (表3-1、3-2、3-3)。

IV. おわりに

卒後2年目看護婦を対象とした、「看護文献の探し方」の講義を始めて4年目となる。4回目の今年は長い説明文の資料を読んで進めることを止め、スライドにて要点のみを説明し、二次資料を用いた実習に重点をおいた。

この講義を継続的に行うことで、担当者の顔と名前を覚えてもらうことになり、気軽に質問もでき、図書室の活用率アップにつながっていると感じている。限られた時間では不十分なこともあるが、看護婦が看護業務を振りかえり、EBMの実践ができるような研究的視点を持ち、さらに研究を継続していくことができるよう、今後も看護研究への支援をしていきたい。そして、利用しやすい図書室、利用される担当者でありたいと思っている。

参考文献

- 1) 望月雅子：研究における看護文献の意識調査。袋井市立袋井市民病院研究誌。1997；6(1)：116-123.
- 2) 南裕子他：看護における研究。井上幸子他編。看護学大系10。東京：日本看護協会出版会：1991. p. 27.
- 3) 今田敬子：看護文献と図書室の活用。看護学雑誌。1995；59(4)：298-303.
- 4) 堤由美子：看護研究における実践者の問題と対策。月刊ナースデータ。1995；16(8)：28-33.
- 5) 和田佳代子：看護学校における文献索法授業の効果。教務と臨床指導者。1993；6(1)：190-202.
- 6) 山添美代，山崎茂明著：看護研究のための文献検索ガイド。2版。東京：日本看護協会出版会；1995.